

## 三浦市立岬陽小学校

研究テーマ：自分らしく いきいきと表現する子

### 1、実践の目的

平成31年度まで、「自分の考えをもつ・伝える・深める」という研究主題のもと研究を行ってきた。「①自分の考えをもつ、②自分の考えを伝える、③自分の考えを深める」という3つの過程を意識した授業を実践することで、自分の考えをもち、友だちに考えを伝え合い、考えが変化、強化、深化することができることを目指し、子どもが自らの考えを「深める」ための具体的な手立てを考えた。研究授業では、「もつ」「伝える」の往還する学習過程の中で、個や集団の思考が「深まる」ことを共有することができた。その一方、自分の考えをもつことができていても、伝える場面に課題があり、伝えたいことはあっても考えがうまく伝わらずに、集団の思考が深まらない場面も見られた。「遠慮してしまう子が活躍・表現する場を作っていきたい」「一人ひとりのつづやき、発言からどんな考えをもち、どのような過程にいるのか、どのような手立てを講じていけるのかを考えたい」などの子どもの実態や教員の思いを共有した。

以上を踏まえ、令和2年度から「自分らしくいきいきと表現する子」という研究主題のもとで進めていくこととした。(1)「なぜだろう？」と自ら問い続ける姿、(2)「こうしたい！」と自分なりの目標を持って、考え続ける姿(3)「やってみよう！」と表現する姿という3つの視点を意識して、子どもの見取りをしていく。また、子どもが自分らしくいきいきと表現するための教員の手立

てを「①一人一人が表現したいという思いを育めるような単元づくり・授業づくり」、「②個々の思いを伝え合うための教員の子どもへのかかわり」とし、場を設定したり、手立てを講じたりして、個と全体の子どもの姿を具体的に見取りながら研究授業・協議会を行い、「自分らしく いきいきと表現する子」の育成を目指していく。

### 2、実践の内容

5年生は社会科、4年生は国語科の授業を研究授業とした。校内を2つのグループに分け、1・3・5年生グループ、2・4・6年生グループとし、共同研究者として授業を組み立てた。特に今年度は、教科、単元の決定からグループで話し合ったり、そのクラスの担任ではない教員が授業したりと、チームとしての機能を意識しながら取り組んだ。また、ICTを活用する部分では、ICTを活用した教育を得意とする教員が授業にかかわる資料を作ったり、学年ごとのつながりが分かるように、低学年でこのような授業展開があったので高学年ではこのようなねらいとなるというように話し合ったりしながら、チームで授業を組み立てた。

### 3、実践の成果

第一に、授業実践を通して、「自分らしくいきいきと表現する子」の具体的な姿を一人ひとりの教員が明確に持ち、共有することができたことである。(1)「なぜだろう？」

と自ら問い続ける姿、(2)「こうしたい！」と自分なりの目標を持って、考え続ける姿、(3)「やってみよう！」と表現する姿を単元の中でどのように見とるか、授業の中でどのように設定すれば良いかを話し合いながら進めることができた。

第二に、その姿を実現するための単元構想や授業実践を通して、効果的であった場の設定や教員の具体的なかかわり方を共有することができたことである。

以上の2つの点について共有できたことは大きな成果であり、これらをもとにしていくことで、今後はさらに研究主題に迫っていけるような授業づくりをしていけるのではないかと考えている。

#### **4、今後の展開**

「自分らしく いきいきと表現する子

～伝えたくなる場・かかわりづくり～」の研究主題の元、自分なりの表現の仕方で相手に伝えたり、友だちの思いを受け取ったりしながら、いきいきと学ぶ場を作っていきたい。そのために、ICT を効果的に使ったり、子どもたちがいきいきと表現する場をどう設定するか、教師はどうかかわるべきかなどについて話し合ったりするなど、教員間での情報共有や意見交換を活発に行っていきたい。